

令和4年度地域課題整理表【就労支援部会】

現状 (令和3年度末)	<p>昨年度と同様、^{※3}新型コロナウイルスの感染拡大を受け例年実施していた就労を応援するセミナー、企業との情報交換会・企業を対象とした福祉サービス事業所の見学会及び学習会を中止せざるを得なかった。</p> <p>大規模な活動が困難な中でどういったことができるか苦慮したが、アンケートや協議会の実務者会議内で多くの事業所から「他事業所について知りたい」「気軽な環境の中で横のつながりをつくりたい」といった意見をいただき、事業所間での交流会を実施することに至った。また、就労アセスメントマニュアルを改訂し、特別支援学校と共有した。</p> <p>交流会後には^{※1}「こういった機会を定期的実施してほしい」といった好意的な反響がありつつも、「課題に感じていることを解決に結びつける仕組みが必要ではないのか」といった意見をいただいた。今後も積極的に交流会を時勢に応じた形態で実施しながら、^{※2}地域で活動する事業所からの意見を集約し、ただの思いを話す場所ではなく、課題と捉えられる事項を解決に向けて取り組める体制を構築することが必要である。</p>					
現状から見える課題 及び優先順位	※1	事業所間でのつながりの強化や思いや悩みを共有できる機会を求めている声があるため、定期的な交流会を実施し、定着していきたい。ただの交流会では形骸化することも懸念されるため、課題の解決に向けた取り組みの起点になるようにしていく				
	※2	集約された課題の解決に向けて協議し、取り組める体制を強化していく				
	※3	今後も時勢によって活動に制限がかかることが想定されるが、協議会の活動が停滞しないように出来ることを積極的に実施していく				
令和4年度中に 取り組む課題	※1	事業所間での交流会を積極的に実施していく。福祉サービス間の交流会に留まらず、就労・教育・医療といった多職種に渡る交流会への拡大を視野に入れて取り組んでいく。				
	※2	交流会・意見交換会による意見や課題感の集約の継続				
解決目標及び、 目標達成に向けた取り組み	※1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">解決目標</td> <td>交流会・意見交換会の継続と拡大(就労アセスメントの評価も含む)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">取り組み</td> <td>昨年度はB型事業所間での交流会で留まってしまったが、A型事業所対象の交流会も実施する。福祉サービス間での交流会を継続しながら、企業・教育・医療といった多職種による交流会を企画していく。時勢によって活動を停滞させるのではなく、時勢に合わせた形で積極的に実施していく。</td> </tr> </table>	解決目標	交流会・意見交換会の継続と拡大(就労アセスメントの評価も含む)	取り組み	昨年度はB型事業所間での交流会で留まってしまったが、A型事業所対象の交流会も実施する。福祉サービス間での交流会を継続しながら、企業・教育・医療といった多職種による交流会を企画していく。時勢によって活動を停滞させるのではなく、時勢に合わせた形で積極的に実施していく。
解決目標	交流会・意見交換会の継続と拡大(就労アセスメントの評価も含む)					
取り組み	昨年度はB型事業所間での交流会で留まってしまったが、A型事業所対象の交流会も実施する。福祉サービス間での交流会を継続しながら、企業・教育・医療といった多職種による交流会を企画していく。時勢によって活動を停滞させるのではなく、時勢に合わせた形で積極的に実施していく。					
	※2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">解決目標</td> <td>課題を解決に結びつける協議体やプロセスの強化</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">取り組み</td> <td>協議会の運営会議や就労支援部会の事務局を活用し、課題の抽出から解決に至る仕組みづくりの協議体について協議していく。</td> </tr> </table>	解決目標	課題を解決に結びつける協議体やプロセスの強化	取り組み	協議会の運営会議や就労支援部会の事務局を活用し、課題の抽出から解決に至る仕組みづくりの協議体について協議していく。
解決目標	課題を解決に結びつける協議体やプロセスの強化					
取り組み	協議会の運営会議や就労支援部会の事務局を活用し、課題の抽出から解決に至る仕組みづくりの協議体について協議していく。					
令和4年度実績	昨年度末に実施したB型事業所の交流会に続いて、A型事業所とサービス管理責任者を対象とした交流会を実施することで、人材交流、情報交換、課題感の共有を図ることができた。					
残された課題	課題解決に向けた協議やプロセスの強化について、成果を残すことができなかった。					
新たに確認された課題	例年に比べ、多くの活動を展開した反面、地域のニーズに応えることが出来ないままで年度を終えてしまったため、事務局の機能の整理をしていく必要がある。					

令和5年度地域課題整理表【就労支援部会】

令和5年4月1日現在

<p>現状</p>	<p>圏域内の事業所間の関係性を強化しつつ、それぞれの立場からの悩みや課題を共有する機会として、就労継続支援A型、サービス管理責任者を対象に交流会を実施した(B型事業所の交流会は令和3年度末に実施)。*2交流会後のアンケートでは好評で、継続の意向を多く確認している。また、*1他事業所を見学したいといった意見も上げられ、交流会を通じ、事業所からのニーズを把握することも出来た。 新型コロナウイルスへの対応について緩和傾向となっていることもあり、*3開催を断念していた就労を応援するセミナーの実施についても検討をしている。</p>	
<p>現状から見える課題及び優先順位</p>	<p>*1</p>	<p>見学会のニーズを把握しつつも、実施することができなかった。早期の実施と、いただいた希望を実現するために部会運営を見直す必要性がある。</p>
<p>令和5年度中に取り組む課題</p>	<p>*1</p>	<p>見学会を早期に実施し、地域のニーズに応じていく。また交流会は継続し、地域での事業所間の連携強化や地域課題の把握に努める。交流会等で挙げた意見を取りこぼさないよう、事務局機能の見直しを図る。</p>
<p>解決目標及び、目標達成に向けた取り組み</p>	<p>*2</p>	<p>就労を応援するセミナーについて、地域のニーズを把握し、実施の方法や内容等を検討していく。</p>
<p>解決目標及び、目標達成に向けた取り組み</p>	<p>*1</p>	<p>解決目標 サービス提供事業所からの生を声を基に、部会の活動を展開していく</p>
<p>解決目標及び、目標達成に向けた取り組み</p>	<p>取り組み</p>	<p>見学会・交流会を実施し、意見集約を行いつつ地区内の事業所間での横のつながりを強化する。集約した意見を基に部会活動を展開できるよう、事務局内でそれぞれの企画を担当するチーム分けを検討する。</p>
<p>解決目標及び、目標達成に向けた取り組み</p>	<p>*2</p>	<p>解決目標 就労を応援するセミナーの開催検討</p>
<p>解決目標及び、目標達成に向けた取り組み</p>	<p>取り組み</p>	<p>地域にある就労に関するニーズを把握しながら、セミナーの実施等について検討する。</p>
<p>R5実績</p>		
<p>残された課題</p>		
<p>新たに確認された課題</p>		

令和4年度地域課題整理表【精神障害者支援部会】

<p>現状 (令和3年度末)</p>	<p>○現状 【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた動き】 ・福井県立大学の岡田准教授を部会アドバイザーとし、システムの構築に向けて方向性の検討や、精神障害者支援部会の進め方を協議した。年度初めに1回、事務局MTの場で協議。 【包括ケア推進会議及び委員】 ・県、市、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、病院、訪問看護ステーション、専門職養成機関を招集。 ・にも包括構築に向けた協議を行う場として包括ケア推進会議を設置。3か月に1度(年4回)実施。 【精神保健福祉の連携会議】 ・坂井地区の様々なデータを示し、医療、福祉の参加者が地区について考える機会になった。 ・立場の違い、見ている景色の違いに着目し話し合ったことで、お互いに連携していきたいと感じていることを共通認識した。同時に、地区として当事者や家族の思いを聞く機会の必要性について意見が挙がっている。 【部会運営】 ・各会議をオンラインで行うことで、コロナウィルス感染拡大状況に影響されず、開催することができた。</p>
<p>現状を踏まえて、R4年度に 必要な取り組み</p>	<p>※1. 継続して精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて検討していく ※2. 当事者、家族の参画に向けて協議 ※3. 精神保健福祉の連携会議を開催する ※4. 坂井地区としてのデータから指標となる数値目標について検討する</p>
<p>課題解決に向けた具体的な取り組み、方針</p>	<p>※1 令和3年度の実績を踏まえて、「にも包括」構築に向けて、引き続き県立大学の岡田准教授に部会アドバイザーを依頼し、助言をいただきながら協議していく。(事務局MT) ※2 当事者がその人らしく生活できるような支援体制づくり、また、当事者や家族の意見を取り入れやすい仕組みづくりなどを協議する。(包括ケア推進会議、年4回予定) ※3 多職種による連携はニーズも高く、参加者それぞれが成果を感じることができているため、今年度も開催する。当事者の参画についての提案もあったため、それを踏まえて開催方法などを協議する。(精神保健福祉連携会議 年1回予定/包括ケア推進会議 年4回予定) ※4 課題等の検証の指標になるようなデータを模索し、設定して数値目標とする。既存のデータになれば、今後蓄積していけるようにする。(事務局MT 年6回予定/包括ケア推進会議 年4回予定)</p>
<p>実績 (R4年度)</p>	<p>○事務局MT 5回(/6回)実施 ○包括ケア推進会議 5回(/5回)実施 ○昨年に引き続き、県立大学岡田准教授をアドバイザーとし、坂井地区の方向性や協議内容などの助言を受け、進めてきた。 ○坂井地区精神障害者支援部会 精神保健福祉連携会議開催 テーマ「坂井地区における精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムを目指して」 ～当事者も、家族も、地域も、支援者もみんな同じ景色を見るために vol.2～ ・コミュニティーソーシャルワーカーの方に登壇いただき、役割などをご紹介いただいた。 ・社協の地域づくりの視点や、地域での障がい者の受け入れるという視点を共有することができた。</p>
<p>確認された課題</p>	<p>○坂井地区で精神障害者の方が、その人らしい生活を送るための支援体制づくり。 ○坂井地区における精神障害者の方のニーズを集め、地域課題を焦点化していく。 ○当事者及び家族の実態把握と、そこからの地域課題の焦点化。 ○当事者、家族の意見を反映させた地域づくりと支援体制づくり。 ○精神保健福祉連携会議で多職種間での連携の継続。</p>

令和5年度地域課題整理表【精神障害者支援部会】

令和5年4月1日時点

現状	<p>○現状</p> <p>【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県立大学の岡田准教授を部会アドバイザーとし、坂井地区としてのにも包括のシステムの構築に向けて協議を重ねている。 ・現状の把握の必要性和、支援者だけでなく、当事者、家族の思いに沿った支援体制、参画できるような仕組みづくりの必要性が感じられた。 <p>【包括ケア推進会議及び委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、市、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、病院、訪問看護ステーション、専門職養成機関を招集し、協議をおこなった。 ・坂井地区の現状を把握するために、医療機関に協力を依頼し、アンケート調査を行うため、その内容について協議した。 ・にも包括構築に向けた協議を行う場として包括ケア推進会議を設置。3か月に1度(年4回)実施。 <p>【精神保健福祉の連携会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療、保健、福祉の連携会議などで、顔の見える関係を構築、また、立場によって見える景色の違いに気づき、意見交換などを行った。 ・当事者が住み慣れた地域で安心して生活できることを意識し、地域資源とのコーディネーターとしてのコミュニティーソーシャルワーカーについて理解を深めた。 <p>【部会運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会議をオンラインで行うことで、コロナウィルス感染拡大状況に影響されず、開催することができた。
現状を踏まえて、R5年度に必要な取り組み	<p>※1. 継続して坂井地区の精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて検討していく</p> <p>※2. 当事者、家族の参画に向けて、引き続き協議</p> <p>※3. アンケート調査を通じて、坂井地区の精神障害者の現状を把握する。人数だけでなく、入院期間や退院の意思、本人の希望などを含む</p> <p>※4. 精神保健福祉の連携会議を開催する</p>
課題解決に向けた具体的な取り組み、方針	<p>※1 令和4年度の実績を踏まえて、「にも包括」構築に向けて、引き続き県立大学の牛場助教授に部会アドバイザーを依頼し、坂井地区としてのにも包括構築についての助言をいただきながら協議していく。(事務局MT 年6回)</p> <p>※2 当事者がその人らしく生活できるような支援体制づくり、また、当事者や家族の意見を取り入れやすい仕組みづくりなどを協議する。</p> <p>※3 まずは現状を把握するため、アンケート調査を実施する。(包括ケア推進会議、年5回予定)</p> <p>※4 多職種による連携はニーズも高く、参加者それぞれが成果を感じることができているため、今年度も開催する。当事者の参画についての提案もあったため、それを踏まえて開催方法などを協議する。(精神保健福祉連携会議 年1回予定/包括ケア推進会議 年5回予定)</p>
実績 (R5年度)	
確認された課題	

令和4年度地域課題整理表【児童支援部会】

<p>現状 (R3年度)</p>	<p>一昨年度実施のアンケート結果をもとに、下記2項目に関する課題を感じる事業所が多かったため、これらの課題についての討議が行われたが、解決目標の設定や解決に向けた取組みの実施はなされていない。 1.発達障害や多様な福祉制度を理解するための研修機会が必要とされている。 2.気がかりな子どもや家庭への対応がとぎれやすい。情報が始めから共有できなかったり、移行がスムーズにいかなかったりすることがある。←小学校へあがる際の移行支援会議に児童発達支援担当者の参加は増えてきている。しかし、就学以降は途切れてしまうことがある。</p> <p>「早期支援」「医療的ケア児」に関する課題感について、周知する場として、部会を活用することはできるものの、未就学児を対象としたサービス提供事業所は少なく、部会だけでは課題解決に向けての取組みを実施していける体制が整わない。「医療的ケア児」については医療的ケア児等支援協議会が圏域設置されているが、R3年度の活動実績はない様子。</p>	
<p>現状から見える課題</p>	<p>※1 出てきた課題に対して解決目標の設定や解決に向けた取組みの実施がなされていない。</p>	<p>※2 支援力向上や支援者の活力向上、課題共有等をしていくための事業所間ネットワークの強化</p>
<p>R4年度中に 取り組む課題</p>	<p>※1 現状内、2項目の課題</p>	<p>※2 支援力向上や支援者の活力向上、課題共有等をしていくための事業所間ネットワークの強化</p>
<p>解決目標及び、 目標達成に向けた取 り組み</p>	<p>※1 解決目標 取組み</p>	<p>継続的に取組める体制の構築 次年度以降も上記2項目に関する協議の場が続いていく体制を構築できるよう、ワーキングチームを発足する。解決目標の設定や目標の見直しをする時期についても協議していく。また、ワーキングチームの必要性や地域福祉参画への手ごたえを実感してもらえるよう、年度内で研修実施等の実績を残す。</p>
<p>解決目標及び、 目標達成に向けた取 り組み</p>	<p>※2 解決目標 取組み</p>	<p>協議会活動の活発化を図る 小部会制を廃止した一方、R3年度に連絡会のような形で放デイのつどいを創設。各地域支援者が主体性をもって、地域で暮らす当事者にとって有益な議論が活発に行われるようにしていく。</p>
<p>R4年度実績</p>	<p>○全体会議を2回(7/13・3/2)開催し、部会内での活動予定及び、活動実績等の報告と意見交換会を実施した。 ○研修企画WTでの検討会を2回(10/12・11/15)開催し、令和5年度の研修を見据え、12/7に福井県小児科医会作成の研修用動画を活用し、「途切れない支援を考える」をテーマに研修会も開催した。 ○移行支援WTでの検討会を1回(2月21日)開催し、地域事業所や行政機関各課の連携体制を強化するため、第1回目の開催のため、児童に携わる各支援機関の意見を徴収する場とした。 ○放デイのつどいを2回(7月6日・10月31日)開催し、悩みや支援内容等についての共有を実施した。また、Googleマップを活用し、事業所間で遊び場の共有ができるような取組みも試験的に実施した。</p>	
<p>残された課題</p>	<p>現在までに積み上げられた課題の精査等が不十分な課題が残っている。</p>	
<p>新たに確認された課題</p>	<p>○医療的なケアが必要な児童を受入れる事業所や保育所等訪問支援に関して、各市町の福祉計画にて目標値が設定されているが、今後、拡充していくことを目標とした場合、新規事業者側として、懸念されることがいくつかある。(運営面、経営面) ○連携強化を掲げながら部会運営を行っているが、地域の学校との連携がまだ不十分さを感じている方(相談支援従事者やサービス提供職員)が多いのが現状。</p>	

令和5年度地域課題整理表【児童支援部会】

令和5年4月1日時点

現状	<p>○課題感を感じている事業所が多い、下記2項目についての討議を前年度に引き続き、ワーキングチーム(WT)にて実施した。</p> <p>1.発達障害や多様な福祉制度を理解するための研修機会が必要とされている。(研修企画WT)</p> <p>2.気がかりな子どもや家庭への対応がとぎれやすい。情報が始めから共有できなかつたり、移行がスムーズにいかなかつたりすることがある。←小学校へあがる際の移行支援会議に児童発達支援担当者の参加は増えてきている。しかし、就学以降は途切れてしまうことがある。(移行支援WT)</p> <p>その結果、1の研修企画WTに関しては、「途切れない支援を考える」をテーマに研修会を実施することができた。また、2の移行支援WTでは、地域事業所や行政機関各課の連携体制を強化するために意見聴取を行った。</p> <p>○事業所間の連携強化を図るために行っている放デイのつどいでは、悩みや支援内容等の共有や子ども達が活動しやすい公園等の共有方法を検討した。</p> <p>○昨年同様、「早期支援」「医療的ケア児」に関する課題感について、周知する場として、部会を活用することはできるものの、課題解決に向けての取組みを実施していける体制が整っていない。</p>												
現状から見える課題	<p>※1 現在までの課題の整理がなされなかつた。</p> <p>※2 WTが発足し、課題解決に向けた取組みがなされてきているが、未だ整備が不十分</p>												
R5年度中に取り組む課題	<p>※1 現在までの課題の整理を行い、解決策の立案や※2課題の体制整備に繋げる。</p> <p>※2 部会内での協議を活性化するため、課題等に合わせた構成メンバーの検討の実施</p>												
解決目標及び、目標達成に向けた取組み	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">※1</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">解決目標</td> <td>現在までの課題の整理を行い、解決策の立案や※2課題の体制整備に繋げる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">※1</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">取組み</td> <td>前年度中に課題の整理が行えなかつたため、1つ1つの課題に対しての整理を行い、今後の取組みに関する方針と解決策を立案していく。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">※2</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">解決目標</td> <td>部会内での協議を活性化するため、課題等に合わせた構成メンバーの検討の実施</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">※2</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">取組み</td> <td>取組みに関する方針や解決策の立案するにあたり、現在の部会構成にて実施していけるのかも検討し、部会内の構成メンバーやグループ編成を再構築していく。</td> </tr> </table>	※1	解決目標	現在までの課題の整理を行い、解決策の立案や※2課題の体制整備に繋げる。	※1	取組み	前年度中に課題の整理が行えなかつたため、1つ1つの課題に対しての整理を行い、今後の取組みに関する方針と解決策を立案していく。	※2	解決目標	部会内での協議を活性化するため、課題等に合わせた構成メンバーの検討の実施	※2	取組み	取組みに関する方針や解決策の立案するにあたり、現在の部会構成にて実施していけるのかも検討し、部会内の構成メンバーやグループ編成を再構築していく。
※1	解決目標	現在までの課題の整理を行い、解決策の立案や※2課題の体制整備に繋げる。											
※1	取組み	前年度中に課題の整理が行えなかつたため、1つ1つの課題に対しての整理を行い、今後の取組みに関する方針と解決策を立案していく。											
※2	解決目標	部会内での協議を活性化するため、課題等に合わせた構成メンバーの検討の実施											
※2	取組み	取組みに関する方針や解決策の立案するにあたり、現在の部会構成にて実施していけるのかも検討し、部会内の構成メンバーやグループ編成を再構築していく。											
R5年度実績													
残された課題													
新たに確認された課題													

令和4年度地域課題整理表【権利擁護部会】

現状 (令和3年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度はサービス提供事業所、社協、当事者家族、行政に加え各専門部会代表者を委員に招集して実行委員会を3回開催した。実行委員会では障害者虐待、差別解消、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用に関すること、意思決定支援等に関する地域の現状を共有・協議した。特に身体拘束等の適正化と意思決定支援に関して、学びを深める機会を望む意見が挙がっている。 ・地域の障害者虐待防止の取り組みとしてサービス提供事業所向けの研修を開催した。研修参加者からは、令和4年度以降の継続開催を希望する声が挙がっている。 								
現状から見える課題 及び優先順位	<ul style="list-style-type: none"> ① 権利擁護に関する話題が多岐にわたるため、他の専門部会等と連携して取り組む必要がある。 ② 障害者虐待防止の取り組みが地区内の支援者にまだまだ浸透していない。 ③ 差別解消に対する地域の理解や意識を高めていく必要がある。 								
令和4年度中に 取り組む課題	<ul style="list-style-type: none"> ※1 権利擁護に関する話題が多岐にわたるため、他の専門部会等と連携して取り組む必要がある。 ※2 障害者虐待防止の取り組みが地区内の支援者にまだまだ浸透していない。適切な支援をするために、支援者が支援の悩みを共有・相談できる機会が必要である。 								
解決目標及び、 目標達成に向けた 取り組み	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">解決目標</td> <td>権利擁護に関する地域の実情を把握し、必要な取り組みを実施する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">※1 取り組み</td> <td>各専門部会の代表者を委員に招集する。実行委員会で挙げた話題を各専門部会へ持ち帰り、また各専門部会で挙げた権利擁護に関する話題を持ち込む等、連携を図り地域の実情を把握し、課題解決に向けた取り組みを検討・実施する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">解決目標</td> <td>地区内の支援者が障害者虐待防止の取り組みを学び、支援について他の支援者と語り合う機会を持つことができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">※2 取り組み</td> <td>研修会等を企画し、障害者虐待の防止に関する意識の向上と日々の支援を振り返る機会を作る。</td> </tr> </table>	解決目標	権利擁護に関する地域の実情を把握し、必要な取り組みを実施する。	※1 取り組み	各専門部会の代表者を委員に招集する。実行委員会で挙げた話題を各専門部会へ持ち帰り、また各専門部会で挙げた権利擁護に関する話題を持ち込む等、連携を図り地域の実情を把握し、課題解決に向けた取り組みを検討・実施する。	解決目標	地区内の支援者が障害者虐待防止の取り組みを学び、支援について他の支援者と語り合う機会を持つことができる。	※2 取り組み	研修会等を企画し、障害者虐待の防止に関する意識の向上と日々の支援を振り返る機会を作る。
解決目標	権利擁護に関する地域の実情を把握し、必要な取り組みを実施する。								
※1 取り組み	各専門部会の代表者を委員に招集する。実行委員会で挙げた話題を各専門部会へ持ち帰り、また各専門部会で挙げた権利擁護に関する話題を持ち込む等、連携を図り地域の実情を把握し、課題解決に向けた取り組みを検討・実施する。								
解決目標	地区内の支援者が障害者虐待防止の取り組みを学び、支援について他の支援者と語り合う機会を持つことができる。								
※2 取り組み	研修会等を企画し、障害者虐待の防止に関する意識の向上と日々の支援を振り返る機会を作る。								
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員会・・・4回実施(7月、9月、12月、3月) ○研修会・・・2月に実施(講師:和泉短期大学 鈴木敏彦教授「意思決定支援の実践に向けて」) ⇒参加者88名 ・令和3年度の活動で選挙における合理的配慮について話し合った結果、令和4年度の参議院選挙での活動につながった。 ・虐待防止研修の必要性について検討していくなかで、虐待を未然に防ぐためにはどうすれば良い支援が提供できるのかを考え続ける必要があるという点で合意した結果、意思決定支援をテーマにした研修会の実施につながった。 								
残された課題									
新たに確認された課題	実行委員会において、養護者虐待防止や本人理解についてなど家族に対する働きかけができるという意見が出ているが、具体的な取り組みには至っていない。								

令和5年度地域課題整理表【権利擁護部会】

令和5年4月1日現在

現状	<p>・実行委員会において、障害者虐待、差別解消、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用に関する事、意思決定支援等に関する地域の現状を共有・協議することを継続している。</p> <p>・実行委員会で協議した結果が、協議会内外の活動につながっている。</p> <p>・当部会では施設従事者向けの活動を重ねてきたが、家族向けの活動についての意見が挙がっている。</p>	
現状から見える課題及び優先順位	<p>① 権利擁護に関する話題が多岐にわたるため、他の専門部会等と連携して取り組む必要がある。</p> <p>② 地域の支援者から虐待防止等の研修希望がある。</p> <p>③ 差別解消に対する地域の理解や意識を高めていく必要がある。</p>	
令和5年度中に取り組む課題	<p>※1 権利擁護に関する話題が多岐にわたるため、他の専門部会等と連携しながら、当事者の権利擁護につながる活動について検討していく。</p> <p>※2 当事者や家族に向けた活動について検討していく。</p>	
解決目標及び、目標達成に向けた取り組み	解決目標	権利擁護に関する地域の実情を把握し、必要な取り組みを実施する。
	※1 取り組み	各専門部会の代表者を委員に招集する。実行委員会で挙げた話題を各専門部会へ持ち帰り、また各専門部会で挙げた権利擁護に関する話題を持ち込む等、連携を図り地域の実情を把握し、課題解決に向けた取り組みを検討・実施する。
	※2 解決目標	支援者向けだけでなく、当事者や家族向けの活動について実行委員会のなかで協議していく。
	※2 取り組み	これまでに実施してきた施設従事者向けの研修会等の活用。
実績		
残された課題		
新たに確認された課題		

令和4年度地域課題整理表【相談支援事業所連絡会】

現状 (令和3年度末)	<p>○相談支援事業所連絡会の現状 事例検討会と情報共有会を引き続き実施。情報共有会では各相談員の意見交換が活発になりつつある。 また、研修会においては基幹・委託だけでなく、特定相談支援事業所の相談支援専門員も企画・運営に加わり、“相互によるフォローアップ・育成”が定着しつつある。</p> <p>○坂井地区の相談支援体制の現状 R2年度と比較し、常勤専従の相談支援専門員の数は増加したものの、業務過多により担当事業所が見つからずセルフプランを運用するケースが出てきている。また、委託相談支援事業所においても業務過多の傾向が見られる。</p>
現状から必要な取組	<p>※1 相談支援専門員の継続的なフォローアップやスキルアップ</p> <p>※2 現行の相談支援体制の評価及び必要に応じた見直し →相談支援事業所連絡会での活動とは別の機会での取組が必要ではあるが、協力、提案していく形で関与する。</p>
R4年度中の取組	<p>※1 相談支援専門員の継続的なフォローアップやスキルアップ</p> <p>※2 地域課題になり得る話題があがった際に、その検証や今後の活動につなぐ。</p>
R4年度中の取組に関する具体的な方針	<p>※1 取り組み 相談支援専門員の相互によるフォローアップやスキルアップが図られるよう、事例検討会等を行う。 各層相談員どの役割であっても、相談支援の目的と基本的視点をもって相談支援業務を実施できるよう、学びを深める。</p> <p>※2 取り組み 定期的に地域課題を意識した話し合いの場を確保するとともに、出てきた話題を共有しながら、課題解決に向けた活動の提案等をしていく。</p>
実績	<p>【11回実施(情報共有会6回、事例検討会2回、GSV2回、研修会1回)】</p> <p>○事例検討会⇒GSV ・野中式事例検討会をグループスーパービジョンに変更。1度に検討する事例・・・1⇒3 ⇒地域資源の共有 ⇒相談員自身が抱えている課題へのアプローチ</p> <p>○地域課題の抽出 情報共有会では個別ケースから地域課題につなげていく事を意識した取り組みを実施。また研修会では地域づくりに関する内容を実施。</p> <p>○ニーズ調査の実施 在宅生活者の家族に対するニーズ調査をR4年度～R5年度にかけて実施中。家族が担っている支援を明らかにすることで、潜在的ニーズの抽出を目的としている。(拠点事業に関連)</p> <p>(実施できなかったこと等) ・相談支援体制の見直しに向けた課題抽出への協力(未実施のため) ・地域課題の抽出</p>
新たに確認された課題	

令和5年度地域課題整理表【相談支援事業所連絡会】

令和5年4月1日時点

現状	<p>○相談支援事業所連絡会の現状 事例検討会と情報共有会を引き続き実施。情報共有会では各相談員の意見交換が活発になりつつある。 また、研修会においては基幹・委託だけでなく、特定相談支援事業所の相談支援専門員も企画・運営に加わり、“相互によるフォローアップ・育成”が定着しつつある。</p> <p>○坂井地区の相談支援体制の現状 坂井市におけるセルフプランの数について、令和4年度中に障害児相談支援事業所につながったケースもあるが、新規ケースがあることからほぼ横ばい。年度末に各相談支援事業所へある程度割り振ったが、効果は一時的であり課題解決には至っていない。</p>	
現状から必要な取り組み	※1	相談支援専門員の継続的なフォローアップやスキルアップ
	※2	<p>→ 現行の相談支援体制の評価及び必要に応じた見直し</p> <p>→ 相談支援事業所連絡会での活動とは別の機会での取組が必要ではあるが、協力、提案していく形で関与する。</p>
令和5年度中の取組	※1	相談支援専門員の継続的なフォローアップやスキルアップ
	※2	地域課題になり得る話題があがった際に、その検証や今後の活動につなぐ。
令和5年度中の取組に関する具体的な方針	※1	<p>取り組み</p> <p>相談支援専門員の相互によるフォローアップやスキルアップが図られるよう、事例検討会等を行う。 各層相談員どの役割であっても、相談支援の目的と基本的視点をもって相談支援業務を実施できるよう、学びを深める。</p>
	※2	<p>取り組み</p> <p>定期的に地域課題を意識した話し合いの場を確保するとともに、出てきた話題を共有しながら、課題解決に向けた活動の提案等をしていく。</p>
実績		
新たに確認された課題		